
直に。です。。。

あるふぁ@空鍋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

直に。。。

【Nコード】

N4911T

【作者名】

あるふぁ@空鍋

【あらすじ】

落とし物を落とすことすらなくなった未来。

人間はそれでも落とし物、忘れ物をする。

(前書き)

キャッシュカードをなくさないように、考えた人類。

お金がない。

なんという失態だろう。

私は今日、あこがれの人とやっとのことでデートにこぎつけた。
どきどき。

高まる気持ちは私の平常心を上回り、気がついた時にはバスルーム
で就寝。

気がつくとデート3時間前。

約束の駅の西口公園までは1時間半。
準備をしてギリギリ間に合う。

お金を下ろす時間も、お金も、ない。

待ち合わせ場所に着いて。今日は雨だ。

雨は心を憂鬱にさせる。しかし、

今の、まるで暴走機関車のような私の心にはちょうどいい。
平常心プラス2度くらいの私の心。

彼が来て、取り合えず喫茶店でお茶をすることにした。

どんな話をすればいいのか、どういう話をしたのか、するのか。
時系列がコンフューズしていく。

私はお金がない事に頭を働かせてしまう。

「なんだか、僕と居て、つまらない？上の空のようだけれど・・・」
そんなことはない。しかし気になることは気になる。
もしもここでお金がないことを暴露すれば、きっと失望されるだろ
う。

このご時世、男女同権はおろか、今まで虐げられてきた女性の盛

り返しは激しい。
式女性として、恥ずかしくないふるまいをしなければ、嫌われるに
違いない。

「あ、あのー!!」

私は意を決して立ち上がる。

「わ、わたし、実はいま、持ち合わせが、、」
彼が困ったような顔をする。

「だ、だから、」

私は意を決して伝える。

「じ、直に、お願いします……。」

あっけにとられた彼の顔を、長く見つめていることは、恥ずかし
くって、できなかった。

彼の手をとり、うつむく。

「あの、本当にいいんですか？」

彼が気にかけてくれている。でも、

「いいんです。ひとおもいに、お、おねがいます。」

彼の顎に手を添え、唇が近づいていく。

私は、支払いが終えるまでの数秒間を、まるで数時間のように感じ
た。

「いや、あの、そう怒らないでくださいよ。」

「びどい。先に言ってくればあ……。」

私は涙をこぼし、彼がハンカチを貸してくれた。

彼はコーヒーの代金を立て替えてくれると言ってはくれたが、私
のプライドが許さないだろう。

過去には、キャッシュカードというものがあったらしい。

現代では「キャッシュチップ」といって、人間の舌の裏側に埋め込
まれている。

盗難やハッキングから守るためには、身体に埋め込むことが最善であるということなのであるが、インターフェイスと接続するときは、防犯上の理由からも、直接的接触でしか認識されないこととなっている。なので、例えばお金の貸し借りをする時はこうしてキスしないといけない。

こうして私は彼に支払いをしたのだが、そこで問題が起こった。私の契約する銀行のキャッシュネットワークが、点検日で利用できなかったのである。

そして彼はそれを知っていたらしい。

「てつきり知っているものだと思いますよ。だって1年に1度しかない点検ですから。」

そんなもの、どうしてこのタイミングで起こるのか、不思議だよ。

「あーあ。もつとロマンチックがよかったな。こんなのってあんまりだよ。」

私はうなだれる。

「え？どうということですか？」

すかさず、マズいと。

「あ、あの、だからね、そのね、ゝ、ゝ、」

刹那、彼は私の二度目の唇を奪った。

あっけにとられる私。

彼の唇が離れていく。

「これで、貸し借り無しですね。」

彼がはにかむ。

私の脳内口座がキャッシュフローしていたことは、言うまでもないだろう。

(後書き)

書いていて気がついたのですが、こんな未来では詐欺がますます増えそうな気がします。

しかし、科学は何をしでかすかわかりません。

感想がございましたらうれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4911t/>

直に。です。。。

2011年10月9日02時59分発行